

導入目的

「中学校範囲の学力」が未定着である生徒の学力向上
 〈補足〉 履修範囲が、生徒ごとに大きく異なることから
 幅広い学力に対応できることを期待しアダプティブ要素の高い
 すららにて実証を行いました。
 上位層：つまずきを減らすことを目的とする
 下位層：つまずきを減らすこと、および学力の底上げを目的とする

実証方法 / シーン

実証方法 単元を絞ったテストを行い、誤答の属するスキルについて「すらら」復習機能を活用し、アダプティブな学びなおしを実施。※本資料P2参照
 復習課題（目標）に取り組んだあと、同範囲で事後テストを実施し、正答率の変化を検証
 実証単元 平方根（平方根の理解～有理化）
 実証場面 授業内、週2～3コマ（30分/コマ）（期間：約3週間）

成果と考察①

- ・ **学力層を問わず平均点が向上**しました。
- ・ 復習課題（目標）の達成率が高いほど、2回のテストでの得点の伸びが大きい傾向がありました。

テストの平均点比較

クラス	クラス特性	結果属性	初回テスト	2回目テスト	差異
1年A組	特別進学	平均点	36点	68点	↑32点
		上位層平均	57点	85点	↑28点
		下位層平均	20点	51点	↑31点
1年B組	地域協働	平均点	25点	52点	↑27点
		上位層平均	41点	76点	↑35点
		下位層平均	13点	38点	↑25点
1年C組	地域協働	平均点	23点	42点	↑19点
		上位層平均	33点	71点	↑38点
		下位層平均	15点	15点	±0

※差異は1回目と2回目の平均点の差異を示す

目標達成率と差異との相関

